



PFASて何？

有機フッ素化合物の一種。PFASは総称で、1万種類以上あるとされる。代表例がPFOS・PFOA。

- 2000年代はじめごろまで、さまざまな工業で利用されました私たちの身の回りの製品を作る際にも使われていました。
- 2009年以降、環境中での残留性や健康影響の懸念から、国際的に規制が進み、現在では、日本を含む多くの国で 製造・輸入等が禁止されています。
- 日本国内でも、新たに作られることは原則ありませんが、分解されにくい性質があるため、今も環境中に残っています。

“フッ素コーティング製品”に使われている？

▶使われていません

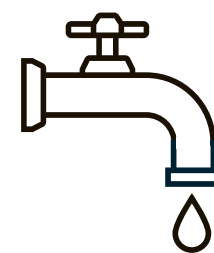


PFOS・PFOA以外のフッ素化合物が使われています

昔は、フライパン等の撥水・撥油加工に用いられるフッ素樹脂の製造の際にPFOAが使われていましたが、今は使われていません（法規制だけでなく、企業の自主的な取組により、使用廃止されました）

水道の水は大丈夫？

▶水道事業者（自治体の水道局）等が水道水中の目標値※を超えないよう取り組みを進めています

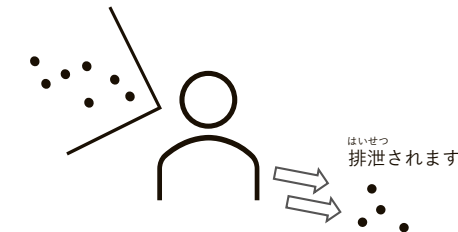


※1リットルあたり50ナノグラム

毎日2リットルを一生飲み続けても健康への悪影響が生じないと考えられるレベル

体に入ったらどうなる？

▶体外へ排泄されて徐々に減ります



体に入った量が半分に減るまでの期間はPFOSでは平均 5.7年、PFOAでは平均 3.2年と報告されています

目標値を超えた水を飲んだけれど大丈夫？

▶まだ、わからないことが多いため、PFOS・PFOAの健康への影響について調査や研究が進められています



目標値を超えていた地域の健康調査において、他の地域との明らかな傾向の違いは出ていません
また、飲料水による個人の健康被害は国内で確認されていません

水だけじゃなくて、食べ物は？普通に生活していて大丈夫？

食品の安全性を科学的に評価する国の機関である食品安全委員会は、「通常の一般的な食生活では、著しい健康影響が生じる状況にはない」と評価しています
「現時点の情報は不足しているものの、通常の一般的な国民の食生活（飲水を含む）から食品を通じて摂取される程度のPFOS及びPFOAによっては、著しい健康影響が生じる状況にはないものとする」（2024年6月）

PFASで世間で問題になっているのは？（各地域の事例）

地域	場所	時期と濃度	対応	ソース
東京都多摩地区	水道水源の井戸水にて	2019年 100ng/L 2020年 280ng/L	水源としての使用を停止	東京都水道局 HP 多摩地区の有機フッ素化合物検査結果 https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suigen/data/tamakako.html
三重県桑名市	多度中部送水上にて	2020年 290ng/L 2021年 170ng/L 2022年 230ng/L	2022年まで経過観察の後、多度中部送水場を停止、多度北部配水場に切り替え。その後、PFASは基準値以下。	桑名市 HP https://www.city.kuwana.lg.jp/suido/kurashi/kankyou/20231023.html
岡山県吉備中央町	円城浄水場にて	2023年 1400ng/L	岡山県備前保健所の立ち入り検査給水車、ペットボトル水で配水 浄水場の取水源を切替	岡山県吉備中央町 HP https://www.town.kibichuo.lg.jp/site/enjo-pfas/
岐阜県各務ヶ原市	三井水源地にて	—		岐阜県各務ヶ原市 HP 水道水におけるPFAS関連ページ https://www.city.kakamigahara.lg.jp/life/suidou/1001633/1001635/1018902.html

連日、PFAS報道がありますが、水道水でPFAS濃度が暫定目標値を超えた事例は、数か所で、いずれも対策済みです。

全国の水道水のPFAS検出状況把握へ



PFASが一部の地域の水道水から検出されたことなどを受け、国は全国の水道水のPFAS検出状況を把握するため、自治体や水道事業者に対し、これまでの水質検査の結果などを9月末までに回答するよう要請しました。

国が自治体・水道事業者などに回答求める
上水道・簡易水道など対象

- 水質検査 実施の有無
- 検出された場合 最大濃度
- 検査を実施していない場合 理由・実施予定（令和2年度～今年度にかけて）

参考：PFOSとPFOAは何？それ以外だとれば十分？

有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、1万種類以上の物質があるとされています。PFASの中でも、PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）、PFOA（ペルフルオロオクタン酸）は、幅広い用途で使用されてきました。これらの物質は、難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質があるため、国内で規制やリスク管理に関する取り組みが進められています。

LIXILの浄水カートリッジでとれるPFASは何？

粒状活性炭で、PFAS濃度を低減できます。

LIXILの浄水カートリッジは、粒状活性炭を使用しており、PFASへの効果を確認しております

※浄水場でも、PFAS対策として粒状活性炭を利用しています。

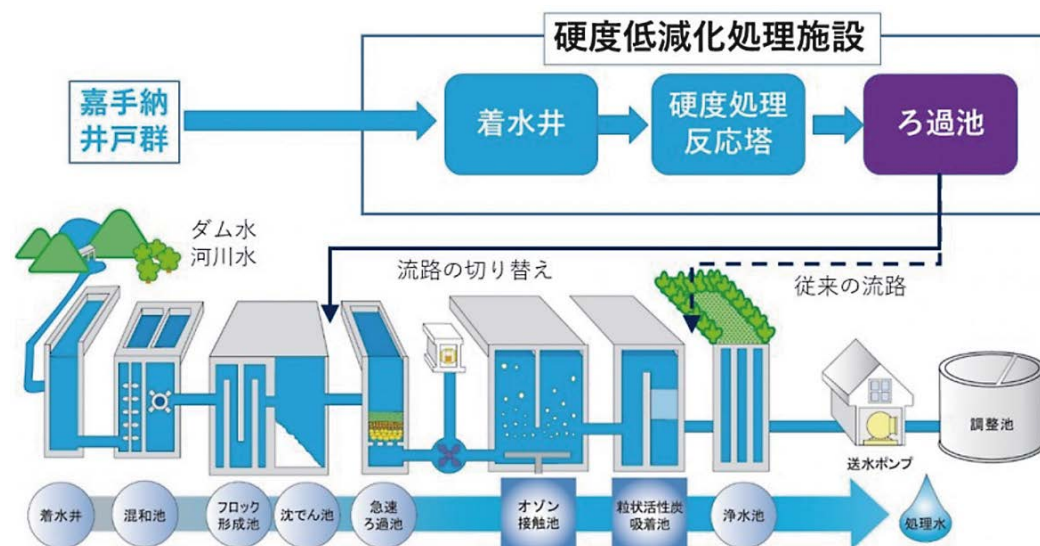


【活性炭】

活性炭は、原料により吸着除去する物質が異なります。LIXILは独自のブレンドによって、自社工場で原料から成形し、優秀な性能を生み出しています。

LIXILの浄水カートリッジは、粒状活性炭を使用しています。

▶ 沖縄県の場合



活性炭処理による低減

北谷浄水場の粒状活性炭吸着池はトリハロメタンや臭気物質対策を目的として整備された施設ですが、これまでの調査でPFOS等の吸着低減効果があることが確認されています。そこで企業局では粒状活性炭の定期的な取替えを行い、PFOS等の低減化を図っています。また、これまで硬度の低減処理のみを行っていた嘉手納井戸群の水(硬度低減化施設処理水)についても、令和2年7月から浄水場内の流路を切り替えて粒状活性炭処理を行うことで濃度の低減を図っています。

LIXILの浄水カートリッジは、PFAS除去性能※を確認しています

※浄水器協会 自主規格基準 JWPAS B2023にて

この度LIXILでは、浄水器協会(JWPA)で定められた規格基準(JWPAS B基準)に規定された試験方法により、新たにPFASの一種であるPFOS、PFOAについて自社浄水カートリッジでの除去試験を実施し、以下(一覧参照)の浄水カートリッジでPFOS、PFOAの除去を確認できました。

■浄水カートリッジにおける PFOS・PFOA 除去試験結果

シリーズ	JF-K12-A JF-K12-C JF-K12-D JF-K12-F	JF-K11-A JF-K11-B JF-K11-C	JF-K10-A JF-K10-B JF-K10-C	JF-K22-A JF-K22-C JF-K22-D JF-K22-F	JF-K21-A JF-K21-B JF-K21-C	JF-K20-A JF-K20-B JF-K20-C	JF-22 JF-22-F JF-22-S JF-22-E	JF-21 JF-21-T JF-21-F JF-21-S	JF-20 JF-20-T JF-20-F JF-20-S
外観									
代表品番	 JF-AJ461SYX(JW) JF-AJ461SYXB(JW) JF-AJ461SYXBV(JW)			 JF-AP461SYX(JW)		 JF-AF442SYXA(JW)	 JF-AF434SYA(JW)	 JF-AH437SYA(JW)	
試験結果	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去

■浄水カートリッジにおける PFOS・PFOA 除去試験結果

シリーズ	JF-31	JF-54 JF-54-T JF-54-F JF-54-S	JF-53 JF-53-T JF-53-F JF-53-S	JF-47	JF-45N	JF-43N
外観						
代表品番	—	 JF-WA505A(JW)		 JF-NAH461SY(JW) JF-NAA466SY(JW)		
試験結果	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去	合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去

■互換品※（非純正品）

シリーズ	JF-31
外観	 (イメージ)
代表品番	—
試験結果	不合格 総ろ過水量(寿命)にて 80%以上除去できない ※1/3 程度の性能しか 満足しないことを確認

※無作為に購入した互換品の試験結果であり、
すべての互換品の性能を示すものではありません。

PFAS対応 Q&A集

■PFAS除去について

Q:PFASって何？

A:有機フッ素化合物の一種。PFASは総称で、1万種類以上あるとされる。代表例がPFOS・PFOA。

Q:LIXILの浄水カートリッジで、PFASが除去できるの？

A:はい、浄水器協会(JWPA)で定められた規格基準(JWPAS B基準)に規定された試験方法により、新たにPFASの一種であるPFOS、PFOAについて自社浄水カートリッジでの除去試験を実施し、自社の浄水カートリッジでPFOS、PFOAの除去を確認できました。

LIXILニュースレター：https://newsroom.lixil.com/ja/20230901_02

Q:浄水器協会の試験とは、どんな方法ですか？

A:**浄水器協会のHPで公開**されています。(JWPAS B)試験方法に関する内容は、浄水器協会にお問い合わせください。

浄水器協会HP https://www.jwpa.or.jp/jo_kikakubunsho.htm

■水道水質への不安

Q:自宅の水道水は安全なの？

A:ご自宅の水道水質が不安な場合は、**担当の水道局**にご確認ください。浄水器は水道水質を前提とした商品です。

Q:LIXILでPFAS測定してくれないの？

A:申し訳ありませんが、そういった対応は出来かねます。

■技術資料

Q:PFASに関する、データ、技術資料はどこで見ることができるの？

A:LIXILのHPをご覧ください。LIXIL以外のネット記事、Youtubeへは誘導しないでください。

LIXILニュースレター(23.9.1) https://newsroom.lixil.com/ja/20230901_02



LIXILストア

<https://s.lixil.com/pfas>



LIXIL お客様相談センター

<https://s.lixil.com/cartridgesupport>

■他社比較

Q:他社の浄水カートリッジと比べて、LIXILの浄水カートリッジは優れているの？

A:PFAS含め、他社製品との比較は実施しておりません。LIXILの浄水カートリッジは、JISや浄水器協会規格の試験方法で評価し、その結果に基づいた性能を表示しております。